



住吉教会 2015 年度テーマ
「殉教者の霊性を生きる」
—信仰刷新の年—

御聖体の祭儀（キリストの御体と御血）

コンスタンシオ コンスルタ神父

御聖体の祭儀（感謝の祭儀＝ミサ）はキリストが現存されていることに対し、特別な注意を払うために制定されました。ある意味で、最後の晩餐の聖木曜日のミサの再現です。聖週間に関連する悲しい記憶は主がパンを割り、主が世の終わりの日まで主の教会と共におられるという最後の約束に暗い影を投げかけがちです。しかし、それは一日を満たす糧（かて）として主がご自身を差し出されるという私たちに示された寛容を祝うもので、教会が私たちに座らせ、立ち止まらせて私たちの中に神を現されるという偉大な奇跡について考えさせるものなのです。私たちは父なる神がその御ひとり子を贖い主、救い主として、私たちの主であり友人としてお与え下さったことに感謝します。神はその御子の命を通して出来得るすべてのことを私たちにして下さいました。

祭儀は御聖体についてだけではありません。これは御聖体を称賛するため（ミサを捧げるため）に集う共同体のためでもあります。もてなしは福音のメッセージの中心にあるものです。もし私たちの心が開かれず、私たちの日常生活に必要な人々のみと分かち合う姿勢であるならば、私たちの祭儀において一致することは出来ません。御聖体（ミサ）を捧げることもイエス・キリストがなさったように貧しい人々に手を差し伸べることも出来ません。共同体の主日のミサにもたらず何かは私たちが過ごす週日の日常にこそあるのです。私たちは世俗の生活スタイルを祭壇に持ち込みキリスト者として祭儀にあずかることは出来ません。他者に奉仕する生活を送ることにより御聖体についてのすべてを正しく理解し始めることが出来るのです。それにより救いの手を差しのべる、また親身な声をかけ、絶望を希望へと変え、猜疑心を信頼に変えることの出来る癒しの存在として隣人に接することが出来るようになるのです。

変わろうとする、またキリストの歩まれた道を進もうとする願望、そしてキリストが思いやり、分かち合いを示されたように生きる努力なくして真に御聖体拝領にあずかることは出来ません。私たちが心の底から罪を恐れる時、御聖体は私たちの傷を縫い合わせ、私たちの力を回復させ、そして悩める魂に平安を与えて下さるのです。私たちは感謝の民であり、生活、家族、友人、食物や衣服といった必要最低限の贈り物に対し神をほめたたえることを知っている共同体です。何よりも、私たちはキリストを通して私たちになされたことに対し神に感謝するのです。

御聖体の中の天の父である神と共にある共同体が私たちの命を変身させ、私たちが私たちに与えられたそのものになることが出来ますように。